

記載例

様式第2

揮発性有機化合物排出施設設置（使用、変更）届出書

不要なものを削除する

年 月 日

提出先に応じて記載

徳島県知事 殿
(南部・西部) 総合県民局長 殿

個人の場合は個人名を記入
法人の場合は法人名並びに代表者の氏名を記入
代表者でない場合は委任状が必要

届出者

〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地
株式会社 〇〇〇〇
代表取締役 〇〇 〇〇

大気汚染防止法第17条の5第1項（第17条の6第1項、第17条の7第1項）の規定により、揮発性有機化合物排出施設について、次のとおり届け出ます。

不要なものを削除する

工場又は事業場の名称	株式会社〇〇 ××工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	〇〇市〇〇町〇 〇丁目〇〇番地	※受理年月日	年 月 日
揮発性有機化合物排出施設の種類	6 項 印刷の用に 供する乾燥施設 No. 1、No. 2	施行令別表第1の2に掲げる項番号及び 名称、施設番号	
揮発性有機化合物排出施設の 構造及び使用の方法	別紙1のとおり。	※審査結果	
		※備考	
揮発性有機化合物の処理の方法	別紙2のとおり。		

備考1 揮発性有機化合物排出施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の2に掲げる項番号及び名称を記載すること。

- ※印の欄には、記載しないこと。
- 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。
- 排出ガスを処理施設において処理していない場合には、別紙2の届出は必要ない。

別紙1

揮発性有機化合物排出施設の構造及び使用の方法

工場又は事業場における施設番号		No. 1	No. 2
名 称 及 び 型 式		ワリン用脱臭ドライヤー AB10	ワリン用脱臭ドライヤー MCOS5
設 置 年 月 日		年 月 日	年 月 日
着 手 予 定 年 月 日		令和3年 4月 1日	令和3年 4月 1日
使 用 開 始 予 定 年 月 日		令和3年 5月 14日	令和3年 5月 14日
規 模	送風機の送風能力 (m ³ /h)	100,000	100,000
	排風機の排風能力 (m ³ /h)	—	—
	揮発性有機化合物が空気に接する面の面積 (m ²)	—	—
	容 量 (kL)	—	—
1 日の使用時間及び月使用日数等		8 時~ 24 時 16 時間/回 1 回/日 20 日/月	8 時~ 12 時 4 時間/回 1 回/日 20 日/月
排 出 ガ ス 量 (m ³ /h)		45,000	45,000
使用する主な揮発性有機化合物の種類		ケロシン類	軽油成分
揮発性有機化合物濃度 (容量比ppm (炭素換算))		200	50
参 考 事 項		No2 は大豆油インク用	

規模・施設の種類
に応じて、必要と
なる事項を記載

排出ガス量
・湿りガス(最大)
を記載
・貯蔵タンクの場合
は記載不要

備考1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

- 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の2の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 揮発性有機化合物排出施設の構造及びその主要寸法を記入した概要図を添付すること。
- 排出ガス量は、湿りガスであつて、最大のものを記載すること。
- 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態における量に換算したものとする。
- 揮発性有機化合物排出施設が貯蔵タンクである場合には、排出ガス量の欄には記載しないこと。
- 揮発性有機化合物濃度は、湿りガス中の濃度とすること。
- 揮発性有機化合物濃度は、揮発性有機化合物の処理施設がある場合には、処理後の濃度とすること。
- 参考事項の欄には、揮発性有機化合物の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、揮発性有機化合物の排出の抑制のために採っている方法(排出ガスを処理施設において処理しているものを除く。)等を記載すること。

排出ガスを処理施設において処理していない場合には、別紙 2 は不要

ただし、処理施設がなくとも排出基準に適合できる旨を説明するため、VOC の排出抑制のために採っている方法を別紙 1 の参考事項に記載
(例) VOC 含有が少ない塗料等を使用

別紙2

揮発性有機化合物の処理の方法

揮発性有機化合物の処理施設の工場又は事業場における施設番号			1 号	
処理に係る揮発性有機化合物排出施設の工場又は事業場における施設番号			No. 1	
揮発性有機化合物の処理施設の種類、名称及び型式			触媒酸化式脱臭装置 SBD112	
設 置 年 月 日			年 月 日	
着 手 予 定 年 月 日			令和 3 年 4 月 1 日	
使 用 開 始 予 定 年 月 日			令和 3 年 5 月 14 日	
処 理 能 力	排 出 ガ ス 量 (m ³ /h)		45,000	
	揮発性有機化合物濃度 (容量比ppm (炭素換算))	処理前	5,000	
		処理後	200	
	処 理 効 率 (%)		96.0	

排出ガス量

- ・湿りガス(最大)を記載
- ・貯蔵タンクの場合は記載不要

湿りガス中の濃度

- 備考1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 排出ガス量は、湿りガスであつて、最大のものを記載すること。
- 3 揮発性有機化合物濃度は、湿りガス中の濃度とすること。
- 4 揮発性有機化合物の処理施設の構造及びその主要寸法を記入した概要図を添付すること。